

【論文提出者】 社会文化科学教育部 教授システム学専攻

氏名 ルー ペトラス ウィレム

【論文題目】 日本の高等教育における文化的知能（CQ）開発のための教育デザイン

【授与する学位の種類】 博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

ルー ペトラス ウィレム (Peter Roux) 氏が提出した論文 “Designing Instruction for Developing Cultural Intelligence (CQ) in Japanese Higher Education” (和文タイトル「日本の高等教育における文化的知能 (CQ) 開発のための教育デザイン」) は、独創性・有用性ともにすぐれた研究業績であり、以下の経緯で審査委員会は本教育部に提出する学位論文として博士号にふさわしいとの判断に至ったことをここに報告します。

① 論文の位置づけと審査経緯

本論文は、大学における文化的知能 (CQ) の向上を目指したワークショップと授業科目の設計と実施に着目してその成果をまとめたもので、他に類を見ない独創的な研究である。ルー氏が提出した博士論文に対して、審査委員会は令和元年 11 月 15 日付で修正要求を通知した。それを受けて、修正論文が令和元年 12 月 15 日付で提出された。それを受けて令和 2 年 1 月 30 日、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく口頭発表及び試問を行った。

② 本論文の示す新知見と独創性

本論文は、第 1 章で研究背景と研究目的を述べたのち、第 2 章では、本論文の中核概念である文化的知能、教育設計法、経験学習、ブレンド型学習についての先行研究等をレビューした。第 3 章では研究の枠組みについて述べた後、第 4 章では、本研究で最初に取り組んだ CQ ワークショップの概要と効果について述べた。第 5 章と第 6 章では、1 学期間にわたる入門科目として拡張した授業の設計と改善から得られた効果について検討した。第 7 章では、以上の成果を文化的知性の育成方法という観点から考察し、第 8 章では、論文を総括して結論を述べた。

③ 本論文の評価

本論文の成果は、これまでに 5 回の国内学会の全国大会や国際会議で口頭発表により報告し、高い関心を得てきた。また、第 4 章～6 章で示した研究成果については、以下の査読付学会誌に採録されており、独創性が認められている。

Roux, P.W., & Suzuki, K. (2017). Designing online instruction for developing cultural intelligence (CQ): A report from a classroom-based workshop. *International Journal for Educational Media and Technology*, 11(1), pp. 87-96.

Roux, P.W., Suzuki, K., Matsuba, R. & Goda, Y. (2018). Developing cultural intelligence (CQ): Designs for blended learning. *International Journal for Educational Media and Technology*, 12(1), pp. 18-28.

Roux, P.W., Suzuki, K., Matsuba, R. & Goda, Y. (2018). Examining the self-perceived development of cultural intelligence (CQ) in a blended learning environment. *Journal of*

Information and Systems in Education, 18(1), pp. 69–76.

Roux, P. W., Suzuki, K., Matsuba, R., & Goda, Y. (2019). Designing Instruction to develop Cultural Intelligence (CQ): Reporting on Blended Learning Outcomes at a Japanese University. International Journal for Educational Media and Technology, 13(1), 27–34.

【最終試験の結果の要旨】

ルー ペトラス ウィレム (Peter Roux) 氏が提出した論文 “Designing Instruction for Developing Cultural Intelligence (CQ) in Japanese Higher Education” (和文タイトル「日本の高等教育における文化的知能 (CQ) 開発のための教育デザイン」) をもとに、令和2年1月30日15:00より、審査委員全員出席のもと審査委員会を開催し、修正論文に基づく最終試験を行った。

その結果、学位論文の記述内容に関する質疑に的確に答えており、当該論文の先行研究や関連概念・理論についての背景的な知識も豊富で、論考の過程も明確に整理されていることが分かった。また、研究の背景や教育工学的意義ならびに当該研究の限界や今後の発展の方向性に関する質問についても、研究の成果および本人のこれまでの学術活動によって得た見識に基づいた学識が披露された。

また、令和2年1月31日13時より行われた公聴会では、複数の他大学からの参加者の質問にも的確に応答できており、文化的知能についての研究と教授設計学の知見を交差させ、大学教育の改善に具体的な提案をまとめたことに関心が集まった。また、研究成果を複数の英語論文(査読付き)として公表していることも高く評価され、今後の研究発展の方向性が示唆された。

よって、ルー ペトラス ウィレム氏は、博士の学位を授与されるにふさわしい学識と研究遂行能力を有するので、最終試験を合格と判定した。

【審査委員会】

主査 鈴木 克明
委員 松葉 龍一
委員 中野 裕司
委員 平岡 齊士